在仏日本人会　会報 N°322　2026年 11月・12月号

JOURNAL JAPON

A.J.F. 在仏日本人会

片川会長への旭日中綬章の伝達式のご報告

9月16日水曜日夕刻、鈴木秀生在仏日本国大使ご夫妻主催による、在仏日本人会片川喜代治会長への旭日中綬章の伝達式が日本国大使公邸にて開催されました。式典は多くの招待者の見守るなかおごそかに執り行われました。鈴木大使により片川会長の長年の功績が紹介され、片川会長の謝辞（挨拶）へと進みました。そして程なく、片川会長を囲む、出席者の方々のなごやかな会話に満ちた会場となりました。予定時間をだいぶ過ぎてしまった楽しい会であったことをご報告しておきます。

叙勲は、在留邦人・日系人の福祉向上、日本・フランス間の経済交流促進への多大な貢献に対して向けられたもので、昨年11月3日付で旭日中綬章を受章され、このたび鈴木大使より勲記および勲章が伝達されました。

片川会長は2017年6月から日本人会の会長として陣頭に立たれております。2003年から2005年には、すでに、在仏日本商工会議所の会頭を務められ、日仏経済交流委員会の1997年創設にも尽力なさっています。2006年から現代日本映画祭（キノタヨ映画祭）の立ち上げを担われ、現在もパリ日本人学校、パリ日本文化会館、パリ国際大学都市日本館、在仏日本商工会議所、日仏経済交流委員会などのさらなる発展に奔走なさっております。

◎週刊「在仏日本人会からのお知らせ」に、片川会長のコラム『天行健語』の連載が月１回のペースで始まります。フランスと日本、その交流に、いっそう思いを強くなさったコラムになるはずです。お楽しみに。





ご家族・大使ご夫妻を囲んで



会長と鈴木大使



勲記



会長挨拶



旭日中綬章

【帰国者向け】ご帰国まで流れ、免税、ワイン輸送など
引越しセミナー
12/8火 10-12時
要予約 ZOOM会議

11月・12月のイベント開催のお知らせ
●手作り味噌教室 11月21日（土）・12月10日（木）
●チーズ教室　　11月24日（火）
●ワイン教室　　11月26日（木）
●マスタード教室 12月11日（金）

国内・国際引越し・事務所移転
至れり尽くせりのお引越
日本トランスユーロ
transeuro.jp
☎ 01-4058-1000
sales@transeuro.jp
詳細はサイトでご案内

フランスでの農業生活

神吉　フミ

私は、南フランスのエロー県、モンペリエの北の田舎に流れ着いて、百姓(農業)をして生きています。
元々は料理人でしたが、日本人の方で園芸農家されてるJさんに影響を受けたのと、日本に帰って農業をしたいと考えていた時、フランス人の友人に相談したら、「フランスでやれよっ、土地なら日本よりあるだろ」そこで東京のフランス大使館にどうやったらいいか聞いたんです。
そしたら、「フランスから日本に帰る前に会社作ってください」って言われて、ワーキングホリデーの帰国前にフランスで会社作ったんです。で、頼んだら滞在許可もらえちゃった。
実は農家なんてほぼやったことないのに勢いだけで始めちゃったんです。今回、コラムのお話をいただいたので、私のフランスふらり滞在記を書かせていただきたいと思います。



私は現在、オクシタニー地域圏のエロー県、モンペリエ市の北にあるGrand Pic Saint Loup　というゾーンのアッサス(Assas)で園芸農家をしています。
※なんでかは割愛しますが、野菜を作ってる農家を日本では園芸農家と言います。

この土地で2021年からやっているんですが、ここのオーナーさんはワイン農家で元々は私がやっていた直売所のお客さんだったんですね。
「うちにちょっと土地あるんだけど、やってみない？」とお誘いをいただき、二つ返事でやることに。

前は近くにある新規就農支援？フランス全土にあるんですが、Espace Test Agricoleというプログラムで同じように園芸農家をしていました。

実は私は三箇所くらいの農場を試したんですけど、いろんな条件が合わなかったり、その他の問題（農業用水や、土地の利用条件など）があったりで最終的に今の場所に落ち着きました。もうすぐ五年くらいになりますかね。

現在、作っている野菜は、フランスのお野菜と日本のお野菜を半分ずつくらいでしょうか。今後は日本の野菜を少しずつ増やす予定です。フランスの野菜に関しては皆さんご存知と思います。ナス、トマト、ズッキーニなど。日本の野菜で私がつくっているのは紫蘇、ニラ、小松菜、水菜、枝豆、春菊などですね。

気候が日本と違うので毎年いろんな日本野菜試していますが、うまくできたり、できなかったり。

私が、農業を始めて一番難しいなぁと感じていることなんですが、僕らは『1年に一度しか試せない』ということなんです。

例えば、3月1日に小松菜の種を蒔いたとして、極端に言えば、『この日に種を蒔けるのは1年に一度しかない』ということですから。

料理人のときは、こんな料理作りたい、と思ったら、試せるし練習できます。もちろん、料理人でも全部が全部そうじゃないですけど。昔、和食の料理人の先輩が「正月に食べる黒豆を煮るのに10年かかる。でも黒豆は年中あるから練習できる。正月にしか煮ないから10年で10回。だったら、1年に10回やれば10年なんて必要ない。」って言ってたこともありました。

毎年、試行錯誤、切磋琢磨して農業に励んでおります。何と言っても、私はまだまだ素人ですから。どんな仕事でも10年、1仕事、一区切り。10年間は仕事でなく、志事（しごと）と考えてます。現在フランスの農業を取り巻く環境は日々変化しています。

フランス政府は有機農業を推奨していますが、全農業地に対する有機農業は10%程度です。

有機農業しない方が儲かる、簡単だというのが農家のホンネなのかもしれません。私も有機農業をしていますが、正直にいうと『難しいな』というのがホンネです。

私は農業というのは人類が築いたものだと思っています。
つまり、人工的に私たちが食べるものを作っていると考えています。

もちろん自然を少しお借りしてはいるのですが、私たちの都合のいいように自然を作り変えている、といっても過言ではありません。
その中で、環境問題などを踏まえて有機農業が推奨されているのです。ほんの少しだけ環境にいい農業なのかもしれません。

ただ、現代農業は私たちの食べるものを大量に作らないといけません。見た目がよく、大量に、大きく。有機栽培だと、見た目も不揃いで、虫が食べた穴もあるし、カタツムリもナメクジもイモムシも、もしかしたら、野菜に入っているかも。

ただ、俗に言う『体に悪い農薬』は入ってません。
また、有機野菜とそうでない野菜では栄養価がちがう、というデータもあります。野菜って意外と量を食べるの難しいですけど、栄養価が高くて少なければ食べやすいかもしれませんね。

面白おかしくやらせてもらってますが、今後の課題は、いかに収入を上げて、農業を続けられるかです。年々、農家を取り巻く環境もきびしくなってますから。年間の労働時間はだいたい3500時間くらい。もっと労働時間を減らしてバカンス取りたいですね。

大変なこともあります。収穫直前の野菜をイノシシにやられたり、ウサギがアスパラガスの畝の中に巣を作ったり。

でも、私は難しいことだからこそ、やりがいがあると思ってやっています。
みなさんも各地域で、ローカルの野菜を買って農家を応援していただけると嬉しいです。



イノシシにやられたビニールハウス



マルシェで販売

【神吉 フミ　来歴】
2018年：　ワーキングホリデーでフランスに料理修行に来る。バスク、ブルゴーニュ、そして南仏に紆余曲折、ボロボロでたどり着く。
2019年：　年明けに会社設立。一度日本へ帰国してビザを待つ。同年、農業のためにフランスへ。
2020年：　モンペリエ近郊の農地で土いじり開始。
2021年：　現在のアッサスの畑になんとか落ち着く、現在に至る。





白菜畑



葉物野菜畑



丘の上からの眺めた畑



ズッキーニ畑



第100回 全パリ・ソフトボール大会（50周年）

（2026年9月6日、9月13日及び9月20日）

在仏日本大使杯並びにマイルドセブン旗争奪戦

（在仏日本人会主催、日本トランスユーロ協賛）

日本人会主催パリ・ソフトボール大会50周年（100回）にあたって

この大会の50年は、振り返ればあっという間でした。しかし、人生の50年は長く、私の人生の半分以上を占めます。
1977年春に始まった本大会は、春と秋、年2回開催され、今年50周年、通算100回を迎えました。参加チームは最盛期には31チームを数え、20周年の頃にも20数チームが参加しました。その後、ゴルフやサッカーに移る人が増え、チーム数は減少しましたが、近年はフランス人、アメリカ人、ベネズエラ人、ドミニカ人、フィリピン人なども参加する国際色豊かな大会へと発展しました。
当初は日本企業や日本食レストラン関係、フランス料理人、地域、芸術家、学生、男女混合など、さまざまなチームが参加しました。Van Ham氏率いるアメリカ人チーム「Paris Mets」は初大会の数年後に加わり、現在も参加しています。
大会の準備には、組み合わせ抽選、試合球や優勝カップの手配、日程調整、審判の依頼、会場設営の資材の調達、整備、確認など、多くの時間と労力が必要でした。しかし、いざ大会が始まると、早朝から日没まで試合が続き、一日は瞬く間に過ぎました。春の大会が終わると、もう秋の大会かと思うほどでした。
15周年（30回）記念パーティーでは、セーヌ川の船上に家族や友人など600名以上が集まりました。また、スイスやドイツの日本人チーム、チェコやアメリカのチーム、日本女子代表チームとの試合、Avignonへの遠征、在仏日本大使や元阪神監督の吉田義男氏との思い出も忘れられません。
この50年を支えてくださった初代実行の井島氏、中島氏、杉山氏、古川氏、藤巻氏、石井氏、竹垣氏、佐藤氏をはじめ、選手を救った青坂氏、日本人会の浦田氏、岡本氏、高橋氏、そして多くの実行委員や関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。各企業、日本人会、選手のご家族、賞品や寄付をご提供くださった皆様のご協力や選手方々の熱意や努力があったからこそ、今日まで続けることができました。長年共に運営した大八木伸泰氏を2020年に亡くしたことは、今も深い悲しみです。
1977年の初回大会から携わってきた柿崎直文氏（86歳）と私、橋本勝義（79歳）は、今回の50周年記念大会をもって実行委員を引退いたします。本大会は今回をもって、ひとまず休会といたします。
50年間、多くの仲間と出会い、喜びを分かち合えたことは、私にとってかけがえのない財産です。皆様お一人お一人のご厚情に、改めて深く感謝申し上げます。
いつの日か、ボランティア精神と情熱を持った方が現れ、大会が復活し、150回、200回と続いていくことを心から願っています。引退後も、復活に向けて惜しみなく協力させていただきます。

皆様、本当にありがとうございました。また、どこかでお会いしましょう。

2026年9月12日
日本人会主催パリ・ソフトボール大会実行委員会　　橋本 勝義

Boulogneの森は3日間好天に恵まれ、無事大会を終る事が出来ました。常連のPSCF（Philippine Sports Club en France）チームが人員不足で急に不参加となり残念でした。結果は次の通りです。

優勝　Titanes（Venezuela、Dominica etc 混合）　4勝
2位　Paris Mets（USA、Canada）　3勝1敗
3位　Chocoball（日本）　2勝2敗
4位　在仏日本大使館　1勝3敗
5位　HEC（日本）　4敗

何か日本チームが元気無く思え残念でした。表彰式に於てはカップや記念品が日本人会から提供され皆嬉しそうでした。
今回を以ちまして、橋本委員長（79歳）と小生柿崎委員（86歳）は退任致します。日本人会始め多くの方々に大変お世話になりました。衷心よりお礼を申し上げます。次の実行委員に全てを託します。増々の発展を陰乍ら祈っております。

実行委員：橋本勝義、西畑孝一、柿崎直文（文責）













パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内（2026年11月10日～2027年1月20日）

パリ日本文化会館　事業案内

【展示】

Five Views～日本の新進写真家～

開催期間： 10月6日（火）～11月14日（土） 会場：地上階ホール

入場自由・無料

内容：新世代の写真家5組（The Copy Travelers、千賀健史、鈴木麻弓、南川恵利、宮地祥平）による展覧会で、パリ日本文化会館とT3 PHOTO FESTIVAL TOKYOの連携企画。震災の記憶や社会規範、身体表現、イメージの複製などをテーマに、各作家が独自の視点で社会との関係性を問い直す。本展は現代写真の新たな可能性を提示するとともに、「写真誕生200周年」記念事業として開催。

春画―江戸時代の官能芸術の傑作

開催期間：11月12日（木）～2027年2月13日（土） 会場：2階展示ホール

参加費：一般7€ / 割引5€ / 会員無料

内容：世界中で再評価が進む官能芸術「春画」に焦点を当て、歌麿や北斎をはじめとする数多くの傑作を揃えた展覧会。木版印刷　技術の発展により江戸時代に花開いた春画は、当時、性的欲求を満たすだけでなく、新婚夫婦への性教育や娯楽として老若男女に幅広く親しまれていました。当時の芸術家たちは、版画や絵画の卓越した技量のもと、検閲を掻い潜るべく想像力を駆使して多様な作品を遺しました。そんな春画作品を一堂に集めたフランスでも稀有な展示です。［18歳未満入場不可］

花はいけたら、人になる

開催期間：11月17日（火）～11月21日（土） 会場：地上階ホール、地下3階フォワイエ

入場自由・無料

内容：いけばなの三大流派のひとつであり、創流100周年を目前に控える草月流の第四代家元・勅使河原茜氏を迎えて、生け花の作品展示を11月19～21日の期間、地上階エントランスホール及び地下3階フォワイエで実施。先立って11月17日～18日には地上階エントランスホールで「ミニ生け花と投入れ花」展を実施。

第14回「伝統と先端と」～日本の地方の底力

日時：11月24日（火）～12月5日（土）

会場：地上階ホール　入場料：無料

内容：人々の生活に欠かせない三つの要素「衣・食・住」をテーマとし、優美なデザイン、繊細な手作業、そして高い完成度を誇る日本各地の工芸品を紹介。日本の地方に根付いた工芸品に触れることにより、その背景にある日本の文化、歴史、技術などを感じることができる貴重な機会。日本の地方が持つ知られざる魅力を発見してみませんか？

メートルダールと日本 ― 継承されてゆく手

日時：12月8日（火）～ 2027年1月16日（土）　会場：地上階ホール

参加費：無料

内容：フランスと日本は、ともに卓越した技とその継承を大切にしてきた。フランス文化省が授与する「メートルダール（Maîtres d'art）」の称号は、日本の「人間国宝」制度に着想を得て創設されたもので、希少な技術における卓越した能力と、その継承への取り組みを顕彰するもの。本展では、4名のメートルダールと7名の元弟子の作品を紹介。現代の創作作品と修復作品を通して、羽根工芸、漆芸、麦わら象嵌、ブロンズ鋳造、フェルト工芸、金属工芸、フラワーオーナメント、ディナンドリー（打出金工）、タブレットリー（寄木・象嵌細工）、鐘鋳造技術、扇子工芸など、多彩な職人技に光を当てる。

【公演】

花はいけたら、人になる

日時：11月21日（土）15時～16時半　会場：大ホール　参加費：一律20€

内容：草月流の第四代勅使河原茜家元によるパフォーマンスデモンストレーション。

Japan Jazz Night 中村海斗カルテット

日時：12月9日（水）会場：小ホール　参加費：一般10€、割引7€、会員5€

内容：米国NY生まれ、日本育ちのドラマー兼作曲家・中村海斗が集めた、日本のジャズシーンの第一線で活躍する次世代の若手ミュージシャンで構成されたカルテット。自身が20歳の時に録音したデビュー作『Blaque Dawn』は、その新しい感性と圧倒的な完成度でジャズ界に衝撃を与えた。セカンドアルバム『INVISIBLE DIARY』は「JAPAN MUSIC AWARDS 2026」にエントリーされるなど、注目を集めている。そんな話題沸騰中の中村海斗と、Kenny Barronクインテットのメンバーにも抜擢されたアルトサックスの佐々木 梨子、Johnny O'Nealトリオでの演奏経験をもつベースの高橋 陸、そして2020年より中村海斗や高橋陸と共演を重ねてきたピアニスト布施 音人による、新世代の感性が激突する繊細かつ熱狂的なアンサンブル。

【映画】

水曜日の名画座―無法者たちの貌（かお）

実施日： 11月18日、12月16日　会場：小ホール　参加費：一般6€ / 割引・会員3€

内容：月に一度、日本映画の珠玉の名作を上映する「水曜日の名画座」。今季はアウトロー特集。各回専門家による上映前作品紹介トーク付き。

■11月18日：加藤泰『懲役十八年』（1967）

［登壇：ジャン＝フランソワ・ロジェ ］

■　12月16日： 舛田利雄『「無頼」より 大幹部』（1968）

［登壇： ファブリス・アルデュイニ ］

日本映画におけるエロティシズム

日時： 11月13日～2027年2月13日　会場：大・小ホール

参加費：一般6 € / 割引・会員 3 €

内容：「春画」展開催にあわせた映画特集。春画をめぐるドキュメンタリー、浮世絵師を描いた作品、日活ロマンポルノ、そして大島渚監督『愛のコリーダ』などを上映。春画から連綿と続く水脈をたどりながら、日本映画がエロティシズムとどのように向き合ってきたかを探る。

【上映プログラム】

11月13日（金）19時：平田潤子監督　『春の画 SHUNGA』（2023）

11月14日（土）16時：大島渚監督 『愛のコリーダ』（1976）

11月14日（土）18時15分：クレール・ラボレ監督　『L'Empire des sens, une histoire d'amour et de mort au Japon』（2026）

11月19日（木）19時：加藤泰監督 『骨までしゃぶる』（1966）

12月15日（火）19時：神代辰巳監督 『赤線玉の井 ぬけられます』（1974）

2027年1月12日（火）19時：田中登監督 『㊙ 女郎責め地獄』（1973）［仮］

2027年1月26日（火）19時：今村昌平監督　『「エロ事師たち」より 人類学入門』（1966）［仮］

2027年2月2日（火）19時：溝口健二監督 『歌麿をめぐる五人の女たち』(1946)［仮］

2027年2月9日（火）19時：鈴木則文監督 『徳川セックス禁止令 色情大名』（1972）

2027年2月13日（土）19時：平田潤子監督　『春の画 SHUNGA』（2023）

いけばな-その多様性を探る一草月100年のあゆみ

実施日：11月18日～19日14時～18時、11月21日16時半―18時半

会場：小ホール　　参加費：無料

内容：ジャポニスム2018におけるいけばな事業に参加した5流派家元を追ったドキュメンタリーと、草月流創流100周年記念映像を上映。いけばなの魅力と歴史、そして未来への展望に迫る。ループ上映。

蛇とお姫様と宮崎駿（学校向け映画上映）

実施日：11月26日、27日　会場：小ホール　　参加費：無料登録制

内容：日本初のカラー長編アニメーション映画『白蛇伝』と、この作品に衝撃を受けてアニメーターを志した宮崎駿監督の『もののけ姫』を学校向け上映会で紹介。日本アニメーションの源流と発展をたどる。

【講演会・セミナー・シンポジウム】

「春画―江戸時代の官能芸術の傑作」展オープニング講演会

日時：11月10日（火）18時～19時半　会場：小ホール 参加費：無料（事前予約制）

内容：11月12日から開催する「春画―江戸時代の官能芸術の傑作」展のオープニング講演会を実施。本展コミッショナー2名が登壇する。

視線の変遷―戦後から現代までの日本写真

日時： 11月12日(木) 18時30分～20時30分

会場：小ホール　　参加費：無料（事前予約制）

内容：パリで開催されるグループ展「Five Views」を記念し、参加作家5組とプログラムディレクターの太田睦子を迎え、現代日本写真の多様な表現とその可能性について語り合う。

花はいけたら、人になる

日時：11月20日(木) 18時～19時半　会場：小ホール　参加費：無料（事前予約制）

内容：いけばな草月流 100 周年を記念した、草月流の第四代勅使河原茜家元による講演会。仏語逐次通訳付き。

日本を読み解く

日時： 11月28日(土) 15時～16時半

会場：小ホール　　参加費：無料（事前予約制）

内容：日本での生活や仕事を通じて抱く感情や印象を手がかりに、日本社会を読み解く異文化理解ガイドブック『Décoder le Japon』。著者のリザ・マロネーゼ氏とポーリン・カゾ氏が、自らの日本での就業経験や具体的なエピソードをもとに、現代日本の職場環境や文化的特徴を紹介。日本赴任や日本理解のためのヒントを探る。

日仏対話：メートル・ダールとその弟子たち

日時： 12月12日(土) 15時～17時

会場：小ホール　　参加費：無料（事前予約制）

内容：「メートル・ダールと日本」展に関連し、メートル・ダール（フランス人間国宝）であるエメリック・イザベル氏が漆芸を、元弟子であるヴォルツ・ヨレーヌ氏が扇子の修復を、そして同じく元弟子のニコラス・デ・フラン・ヴァレリー氏が麦わら細工を紹介します。彼らは、クリエーション、修復、伝承の間で歴史に深く根付いた日本の伝統とフランスの技を共鳴させ制作活動を行っています。

【ワークショップ】

花はいけたら、人になる

日時： 11月19日(木) 14時半～16時半　会場：レセプションホール　参加費：50 €

内容：草月流の第四代勅使河原茜家元による生け花ワークショップ。

布ぞうりワークショップ

日時： 11月20日(金)、 27日(金)　会場：教室２　参加費：45 €

内容：わらじの技法を応用し、藁ではなく古布を用いて作る布ぞうり。日本のリサイクル文化を象徴する「裂き織」にも通じる手仕事の世界を紹介。不用になった布を再利用し、自分だけの布ぞうりづくりに挑戦。あわせて、布ぞうりの技法を応用した裂き織も紹介。江戸時代の倹約文化から生まれた循環の知恵と、ものを大切にする日本の暮らしの文化を体験。

パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris)
事業案内（2026年11月10日～2027年1月20日）続き

着付けアトリエ
日時： 11月28日(土)　会場：茶室及びレセプションホール　参加費：一律25 €
内容：日本の伝統衣装であり、日本文化を象徴する着物。花鳥風月や侘び寂びといった日本独自の美意識が息づく着物の魅力を紹介。特別な道具を使わない手結びによる着付けを体験し、着物での基本的な立ち居振る舞いも学ぶ。日本文化の奥深さに触れる。

子ども茶の湯
日時：12月2日(水) 15時～16時半　会場：茶室及びレセプションホール
参加費：無料予約制
内容：千宗室16代家元のご提唱を受け、茶道裏千家が8歳－16歳の子供・青少年を対象にした茶の湯イベントを今年も開催します。茶道のお作法やその秘密を知ることで日本文化に対する理解も深めることができるでしょう。

学校対象書道
日時：12月3日（木）及び4日（金）9時30分～17時30分
会場：教室　参加費：登録制無料
内容：2021年11月からMCJPでは学生対象に日本文化を体験頂く事業を毎期実施。今回は書道。対象：小学生～高校生。講師：久保美希

篆刻
日時：12月12日(土) 13時～、16時～
会場：教室2　　参加費：45€
内容：篆刻は書道の一分野であり、「方寸の世界に宇宙を宿す」とも称される小さな芸術である。本ワークショップでは、篆書またはかな文字で名前や好きな文字を刻み、世界に一つだけのオリジナル印を制作する。さらに、印を保護するための「はかま」作りにも挑戦する。

＊以下についての詳細は、掲載サイトをご覧ください。
【教室】 https://www.mcjp.fr/ja/agenda?subsections=cours
囲碁教室　裏千家茶道-茶の湯　裏千家茶道教室　表千家茶道-茶の湯　表千家茶道教室ー立礼　日本庭園教室　生花教室　書道教室　日本画教室　布ぞうりワークショップ　折り紙ワークショップ　日本舞踊教室

【日本語講座】
http://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais

【JF にほんご eラーニング みなと】
https://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais/cours-en-ligne_1

＜パリ日本文化会館の催しに関するお問い合わせ＞
火曜日～土曜日、11時～19時　　問合せ先：TEL 01 44 37 95 01
所在地：101 bis, quai Jacques Chirac, 75015 Paris
http://www.mcjp.fr/
*日本人会発行のAMICJカードの提示でMCJP会員価格の適用が受けられます。



補習校だより

エリゼ宮近くへ行く機会があり、回りを散策しましたが凄い数、屈強そうな警官隊がガードしていて物々しい雰囲気でした。ローマ教皇来仏時の際、シャンゼリゼには数十万の人が集まり、丁度、土曜日でしたので、生徒達が通学出来るのか、授業を行う事が出来るのか心配しましたが杞憂に終わりました。
補習校は交通面では、非常に便利な場所に有りますが、デモ、集会、スト等が予定されていると聞くと落ち着きません。その様な事も有り、先日来よりの高校生達の教育環境改善を求める抗議から始まった事態が、早く沈静化する事を願っています。
サンフランソワ校の前校長は義姉が日本女性でしたので、非常に好意的でしたし、現校長さんも、非常に協力的な方で感謝をしております。良い授業を行う為には、その為の場所(教室)の確保が重要だと思っております。
普段はサンフランソワ校の生徒達の使っている教室、机を借りていますので、私達も行儀良く使わせて頂く様に気をつけております。
保護者の方々も、その辺りを生徒達に上手く伝えて下さい。　　飯田 隆一


サンフランソワ校現校長と

夜が長くなると月を眺める時間が増えてくる気がします。カレンダーやスケジュール帳(紙も使っています)に「満月○・半月・新月●」が書き込んであるので、丸くなっていくお月様を見ると満月の日を確認します。曇りだと星はよく見えませんが、月は薄い雲ならほんのり見えますし、雲から出て来るところもきれいですね。　　廣重 幸美

日本は、四季の歌が豊かですね。秋になると「もみじ」「里の秋」「赤とんぼ」「小さい秋、見つけた」などが蘇ります。フランスの曲なら「小さな木の実」「枯葉」など、口ずさみながら、色づいた街を歩いたりします。綺麗な月を見た時、銀杏の木やススキに出会った時、日本の秋を想います。
秋の夜は　本を片手に　猫まくら　　ワイルド令子

夏に帰省した時に、友達からダイヤモンドアートのキットをもらいました。絵の描かれた糊のついた台紙に、プラスチックのビーズを貼り付けていく仕組みです。単純作業が私に合っているようで、夢中になります。このバカンス中に、クリスマスカード用を購入しました。クリスマスに間に合うように、夜な夜な作成する予定です。　　浜田 喜代香

愛犬ぷうちゃんの一日の最大のイベントは、寝る前にもらう歯磨きガム。すぐには食べず、口にくわえたまま私の後をついて回ります。床に置いて前足でつつき、「食べたいな、どうしよう、もったいないな」と迷っている様子。やがて決心して食べ始めます。その嬉しそうな顔といったら！ぷうちゃんの幸せオーラに包まれ、我が家の夜は更けていきます。　　西岡 緑

秋なのか冬なのかわからないほど寒い、そんなときは家で趣味に没頭するに限りますね。何も考えずパズルを解く、趣味で新しいことを学ぶ、買ったけど読んでなかった本を読んでみるなど…（わたしは、ねこを抱っこしながらホラーゲームしています）。こういう息抜きがあってこそ、大事な場面でよく考えたりいい決断ができるようになるのです！　　畠山 友里



舞台裏より愛をこめて　vol.31

「Rendez-vous à Saint-Germain-des-Prés le 15 de ce mois！」

“何かと言う内にパリぢゃ”から始まり、その後Aix-en-Provenceへの道のりが賑々しく描かれるモンマリのSNS…熊本からAix-en-Provenceへ寄贈された“ホンマもの”の能舞台にて9月初旬開催される能楽公演がありながら、9月中旬日本での所用の為居残り組として同行の叶わなかったわたくしは、日本にてくさくさとしておりました。

なにこの笑顔な写真（怒）！この十数年間掛けて母子で蒔いてきたフランスでの種、花が咲いたかと思いきや、さらりとイイトコ取りで持っていっちゃうのよね（激オコぷんぷん）！皆さまから“センセ、センセ”ともてはやされ、ご機嫌炸裂満面の笑み、市街観光の様子までもが、なんとも苦々しく目に映るその頃は、どうにも体調悪く思考もかなりネガティブになっておりました。

その様な折“おやおや何事のありケン、それはかなワン、自身に目をば向けよ”と天上より亡き愛娘犬たちからのメッセージがあり、鬼のイヌ間にへそくりを駆使し、京都山中にある古民家へ籠り酵素断食浄化療法なるものを数日間受けて参りました。酵素飲料のみで過ごす浄化の５日間に続き、心と身体を優しく回復させる食の効果、更に、お宿看板柴犬さんたちに癒され、モンマリに対する恨み節も何とかかんとか治めることが叶い、先頃バタバタとようやっとの思いでパリへ戻って参りました。

12年続けて来ました犬同行に関する検疫への日本出国書類提出や、事前の獣医師による診察、機内での気遣い、降機後すぐのオムツ替えも不要となり、ぽっかりと穴の空いた心を抱え、目頭をおさえながら、鼻をかみながらアパルトマンの扉を開けましたらば…やられました、いや、やられてました、部屋まで大泣きでした、いや、水漏れでびしょびしょでした。わたくしの涙もある種違う涙に…天上のワンたちに、いつまでもべそべそしなさんな、泣いている暇なぞございませぬぞ、ということで、管理人さんやら大家さんやらに連絡するも、業者さんが見に来てくれる気配がまだないことは皆さまご承知の通り、日々風流な雫の音と共に過ごしております。

仏国の日々を楽しもうとする国民性、不便を面白がろうとする人々の姿が萎えた心に活力をもたらし、目下パリでの狂言公演準備に勤しんでおります。毎度のことながら、連日チケットサイトと睨めっこ、チラシ配りにSNS広報、公演ギリギリまでお客さまゼロの悪夢を観る時期に突入です。今回の目玉は狂言三番お届けのうち、二番にフランス人俳優さんが出演されるところでございます。以前、日本より同門の狂言方を招いて上演し、ご好評頂戴致しました“棒縛り”を日仏役者共演でご覧頂きます。



11月15日(日)、MPAA劇場でお会い致しましょう！

ストーリー明快、文句なくお楽しみ頂ける演目の上演となっておりますので、この機会に是非狂言お初のご家族さま、ご友人さまお誘いあわせの上ご来場頂けましたら幸いでございます。そして！日本人会会員さまには「お知らせ」にございました通りdéduction code のご用意がございますので、是非ご利用下さいませ♪市内は平日週末問わず、不穏な情勢ではございますが、その様な時にこそ是非劇場にてお元気なお顔拝ませて頂きたくRendez-vous　致しましょう！本日はこの辺で。

平和への祈りを込めて。



小笠原尚子（おがさわらたかこ）プロフィール：

“やんちゃ狂言師の裏方古女房”　東京生まれ。神戸→名古屋→横浜→佐渡ヶ島育ち。故八世野村万蔵主宰“わざおぎ塾”にて学生時代に演劇を勉強中、狂言師小笠原匡と出逢い1996年に結婚、伝統芸能の世界に入る。その後、大阪生活を経て2014年よりパリ在住。

現在、パリで狂言普及活動の傍ら、自らは役者業を再開?!

フランス人物伝 <31>

～エミール・コール (芸術家、アニメーション映画監督) ～

坂本 昭二



Émile Cohl

エミール・コール（Émile　Cohl：1857-1938）は1857年1月4日パリのゴム工場を営む家に生まれました。しかし、6歳のときに母親が急逝し、孤独な少年期を過ごしています。7歳でパンタンの職業学校（École professionnelle de Pantin）に入学するとその類まれなるデッサン力と芸術的センスが見出されました。しかし、1870年の普仏戦争とそれに続くパリ・コミューンの戦火がパリを襲い、職業学校は一時閉鎖に追い込まれ、École　Turgotに転校しています。この激動の最中、コールは街に溢れていた政治風刺画（Caricature）や人形劇「ギニョール（Guignol）」に衝撃を受け、大衆を風刺するユーモアの世界へ魅了されていきました。

学校卒業後は宝石商の見習いとなりますが、絵画への情熱を断ち切れずに高名な風刺画家アンドレ・ジル（André　Gill）のもとへ弟子入りします。ここで「エミール・コール」というペンネームを授かり（本名はÉmile Eugène Jean Louis Courtet）、風刺画家としてのキャリアをスタートさせました。1880年代になると、既存の退屈なアカデミズムに反旗を翻す前衛芸術グループの中心メンバーとして活動し、ナンセンス、不条理、ブラックユーモアを尊ぶ、後のダダイズム（Dadaïsme）やシュルレアリスム（Surréalisme）の先駆けとなる作品を次々と発表しています。この時期にコールが培った自由奔放なイマジネーションが、後にアニメーションという新しい芸術を生み出す原動力となります。

風刺画家として成功していたコールに、1907年、人生最大の転機が訪れます。大手映画会社ゴーモン（前回紹介したアリス・ギイも所属していた会社）がコールの作品を無断でポスターに盗作しているのを発見して抗議に乗り込んだのですが、その場でシナリオライターとしてスカウトされ（※但し、このエピソードに関しては創作の可能性がある。）、50歳にして映画界へと足を踏み入れます。当時、物のコマ撮り（ストップモーション）を用いたトリック映画が世界的なブームとなっており、ゴーモン社からこの技術の解明を託されたコールは、物を動かすのではなく、手描きの絵そのものを1コマずつ撮影して動かす実験に挑みます。1908年2月から半年をかけて完成した「ファンタスマゴリー（Fantasmagorie）」は同年8月17日に公開され、世界初のアニメーション映画として歴史にその名を刻みました。コールの名声は国際的なものとなり、1912年にはフランスの映画会社エクレールに移籍して米国ニュージャージーのフォート・リー（Fort　Lee（ハドソン川を挟んでニューヨークの対岸に位置する当時の映画産業の中心地））へ進出し、現地の人気漫画を原作とした世界初の連載アニメシリーズ「新婚さん（The Newlyweds）」などを成功させ、黎明期の米国アニメーション界にも多大な影響を与えました。

しかし、第一次世界大戦勃発（1914年）により、コールはフランスへの帰国を余儀なくされます。戦後の1920年代に入ると映画産業は急速に商業化・組織化が進み、コールの制作スタイルは次第に時代遅れとなり、1923年の作品を最後にアニメーション制作の表舞台から引退、その後、1938年1月20日に81歳で生涯を閉じています。

（画像はwikipediaより引用）

日本人会活動案内 -各種相談室・講座・活動-

各種相談（会員のみ）
*要予約（電話に限る）：**01.53.76.17.58**

法律相談（フランスの法律問題）（手配料 5ユーロ）
事前予約の上、電話で相談を受け付けます。
法律上のトラブルを抱えている方は、必ず関係書類をご用意ください。相談内容は職業上の守秘義務により厳守されます。予約は相談日の1ヶ月前から受け付けます。

滞在相談
日本人会にメールでお問い合わせください。contact@nihonjinkai.fr

健康相談
日本人会にメールでお問い合わせください。contact@nihonjinkai.fr

無料子ども相談室
臨床心理士、神経小児科医、保健師、助産師などの専門家がご相談にお答えいたします。ご希望の方は「こども相談」という件名をつけてkodomo.fr@gmail.com 折口までメールください。

クラブ活動・各種講座

ふらんす俳句会
有季定型を基調に句作の楽しみを味わっています。
代表　眞田美佐子　　連絡先 sanadamisako@yahoo.fr

子ども図書館
読み聞かせ　毎月第1および第3水曜日 11h30〜13h00。
日本語児童図書の貸出・返却は随時。永年登録料： 子供一人／2ユーロ

女声コーラス「みもざ」
コーラスの仲間達と美しいハーモニーを作り、楽しいひとときを過ごしませんか。
日本の歌、ミサ曲、フランス歌曲など。毎週火曜日13 : 30~16 : 00、Notre Dame de Compassion / Place du Général Koenig 75017 Paris (Porte Maillot)
https://mimosa-club-japon.jimdosite.com/ を参考に。
連絡TEL 06.33.89.56.59(石原)　メール : mimosafrance@gmail.com

日本人会アーティストクラブ（NAC）
日本人会会員の美術系アーティストのクラブ。年会費16ユーロ。毎月第一火曜日の18h 頃~20h頃、オペラ界隈のカフェTabac Le Ventadour 46, rue des Petits Champs 75002 Paris、あるいはカフェDalayrac 2, rue Dalayrac 75002 Parisに於いて月例の親睦会を開きます。飲み物代は 自己負担。NAC会員以外の方の参加も大歓迎です。問い合わせは日本人会まで。
親睦会、次回は12月1日(火) です。
NACクラブ会員の小品展 "ノエル　ノエル　ノエル展"
会期: 11月23日 から 28日まで　(12時 - 19時)
ベルニサージュ　: 11月26日　17時から
会場 : Galerie Choiseul (77 passage Choiseul 75002 Paris)

マロニエの会
毎月第2火曜日15h〜17h茶話会「La Clef des Champs」49 rue des Petits Champs 75001 Paris 第3日曜日＆第4水曜日14h30〜国際大学都市「日本館」で月例会。
ホーム訪問、講演会、新年会、日本祭参加、郊外農園バーベキュー大会、バス遠足、美術館・催し物見学、食事会と楽しい企画も盛り沢山。
会報を年3回送付。年会費 20ユーロ
連絡TEL：06-5170-4955 (二口) 06-2253-7418 (六藤)

キッズテニス
ARJ16 Tennis Club
(Stade Henry de Montherlant : 32 Bd. Lannes 75016 Paris)
小学生　毎週火曜日（現地校のバカンスを除く）
火曜日　17時18時 小学校低学年から高学年まで
ただいま、若干空きがあります。
メールにてご相談ください。
お問い合わせ amicalejaponaistc@yahoo.fr

書道同好会
*COMPLET 現在空きがございません。
毎週木曜日　15h〜17h　　参加費：月20ユーロ
講師 : 林 信賢
TEL 代表: 06 22 53 74 18　国際大学都市「日本館」

くもん日本人会教室
水曜日14h00~17h00 土曜日13h00~17h00 詳細はTEL:06 09 66 94 39 (中村)

シャンソンDidier教室
日時：第２・第４土曜日（16時〜18時）
場所：Pavillon de la Sirène
20, rue Dareau 75014 Paris　M°Denfert-Rochereau
詳細は下記にお問い合わせください。
ch.tanaka@orange.fr　Tel. 06 0383 2674（田中）
今年のコンサートは11月29日(日)に決まりました。

気功教室
毎週木曜18h30~19h45全レベル参加歓迎
会場：天理文化センター　8-12 rue Bertin Poirée 75001 Paris
最寄駅 Châtelet　参加費：1時間 9ユーロ（日本人会会員割引あり）
気功の他に、太極拳、簡単に見つかる針、マッサージのツボ探し、健康自己管理の知識等も指導。講師/連絡先：ラン光旭（ソルボンヌ大学医学学院利気功・太極拳講師）TEL : 06-69-43-54-45　メール：yokogx@gmail.com

健康と美・ウォーキングレッスン
元パリミラノ東京コレクション/現役モデルによるウォーキング・写真のポージング・メイキャップ・Before　&　Afterなどニーズに合わせたプライベートレッスン(コース3回・180€/3h）プロ志望の方、カウンセリング、Zoomオンラインも可能（非会員：別途料金）
詳細はお問い合わせください。facustudio@gmail.com　TEL:06-2296-0655
講師：北幸子（所属：Paris：Master Models, Tokyo：Oasis Styling)

日本館茶の湯会（裏千家流）
於国際大学都市日本館
稽古日　金曜日（14時半ー17時半）　月二回
　　土曜日（13時ー16時半）　月二回
　　（特別企画）親子茶会和の学校
年会費　25 ユーロ・稽古参加費 一般 25 ユーロ
連絡先　nihonkan.cyanoyu@gmail.com
chakaimomoe@gmail.com （親子茶会和の教室専用）

成人学習者向け日本語講座
*現在活動休止中

ヨガ教室　個人レッスンとオンラインレッスンに加えて、今春からグループレッスンを再開しました。　詳細はメールにてお問い合わせください。
日時：平日午後を中心に参加者のみなさまのご都合に合わせて
会場：パリ市内　対象者：全てのレベル　参加費：1時間30€から
講師：ラロッシュ・アメリ
問合わせ・申込み：　info@vacances-amelie.com（日仏）

川柳パリ会
インターネット上の「NET句会夏雲システム」を利用して開催されるバーチャルな句会を中心にした活動です。川柳をネット上の句会に投句したり、他の会員の川柳を楽しんだり、優秀だと思う作品を選句して参加することが可能です。
連絡先：代表　石井 宏　parisici@yahoo.co.jp

※在仏日本人会法人会員名簿は、インターネット・サイトに掲載されています。
日本人会ホームページの次のリンクをご利用ください。
https://zaifutsunihonjinkai.fr/about-nihonjinkai/houjin-kaiin/
amicJ協賛店一覧はこちらのサイトを参照ください。
https://zaifutsunihonjinkai.fr/members-service/amic-j-card/

RAMBAUD LABROSSE
日本の企業と個人向けに企業、災害、賠償、
運輸、医療、その他保険のことなら
何でもランボーラブロスへどうぞご連絡下さい
91, rue　Saint-Lazare　75009　PARIS
TEL.01.53.32.20.00　まで
FAX.01.42.85.04.65





Michel BRUNEAU
(ミッシェル・ブリュノー
会友)
当会フランス語講座講師
1978~98年日本に滞在
元上智大学講師

ジャンヌについて語るとき、そこに何らかの「謎」を感じずにはいられない。ここでは、彼女に対する4つの異なる視点を紹介しよう。さて、あなたにとってジャンヌとは、どのような人物だろうか。

[第一の視点]

ジャンヌは、まるで漫画の登場人物のような、半ば伝説的な存在である。しかし、この見方は成り立たない。なぜなら、ジャンヌは中世において最も詳細な記録が残されている人物の一人だからだ。彼女が公の場で活動したのはわずか2年間に過ぎないが、我々には豊富な歴史的記述が残されている。さらに、彼女を有罪に導いた裁判と、その後に名誉回復のために行われた裁判、これら二つの裁判の記録も現存しているのである。

[第二の見方]

ジャンヌ・ダルクを批判する人々は、彼女を評判の悪い女、魔女とみなした。イギリスの世論に大きな影響を与えた作家シェイクスピア(1)もその一人だ。

ヴォルテール(2)のように、あらゆる宗教を否定する姿勢を反映して彼女を嘲笑した者もいた。ロベスピエール(3)とフランス革命を熱烈に崇拝する現代の左派政治家も、ジャンヌを狂女とみなしている。

しかし、読み書きのできない若い女性だったジャンヌが、パリ大学の著名な教授たちを相手に、裁判でこれほどの知恵をもって反論できただろうか。

[第三の見方]

ジャンヌを尊重しつつも、彼女の人生と行動を自然な形で説明し、あらゆる神秘性を排除しようとする人々。歴史家のミシュレ(4)、作家のアナトール・フランス(5)、その他多くの作家や映画監督がこの立場をとっている。

[第四の姿勢]

ジャンヌ・ダルクを信じ、彼女の言葉を信じる人々。ジャンヌは常に、大天使ミカエルとカタリナとマルガリータに導かれていると主張していた。作家のシャルル・ペギー(6)とジョルジュ・ベルナノス(7)もこの立場である。シャルル・ペギーは、聖母マリアを除けば、ジャンヌは歴史上最も偉大な聖人だとまで述べている。数多くの映画作品の中でも、デンマークの映画監督カール・ドライヤー(8)とロベール・ブレッソン（リュック・ベッソンとは別人）(9)の作品が際立っている。カール・ドライヤーの『ジャンヌの受難』（1928年）は、サイレント映画の最高傑作とされている。ロベール・ブレッソンの『ジャンヌの裁判』（1963年）は、裁判と有罪判決の際の対話を忠実に再現している。主要な映画作品は全部で約40本、短編映画、テレビ作品、ドキュメンタリーを含めると50本から100本に上る。映画の黎明期から、ジャンヌは1898年にリュミエール兄弟(10)によって、そして1900年にはジョルジュ・メリエス(11)によって発表された。

アメリカの作家、マーク・トウェイン(12)について少し触れておこう。マーク・トウェインは、ジャンヌ・ダルクを深く敬愛していた。 彼にとってジャンヌは、人類の歴史上最も魅力的な人物であり、彼女について調査するためにわざわざフランスへ渡ったほど。彼はジャンヌの伝記を執筆し、それを自身の最高傑作と見なしていたが、当初はフィクション（創作）と誤解されないよう、あえてペンネームで出版した。 2031年には、ジャンヌ・ダルクの没後600年という節目を迎える。この機会には、数多くの記念イベントや書籍、学術シンポジウム、展覧会などが催されることだろう。ジャンヌの生涯と功績は、これまでにも多くの書籍や論文、映画の題材となってきたが、今なお尽きることのないテーマであり続けている。 ジャンヌ・ダルクは、間違いなく、歴史上最も有名な女性の一人だ。では、あなたにとって、ジャンヌ・ダルクとはどのような存在だろうか？

(1)シェイクスピア（William Shakespeare）：（1564年-1616年）イギリスの劇作家、詩人。イギリスルネッサンス演劇を代表する。(2)ヴォルテール（Voltaire）：（1694年-1778年）フランスの哲学者、文学者、歴史家。18世紀フランス啓蒙思想の旗手。(3)ロベスピエール（Maximilien de Robespierre）：（1758年-1794年）フランス革命の急進派指導者。テルミドールのクーデタ（1794年）で失脚し、処刑された。(4)ミシュレ（Jules Michelet）：（1798年-1874年）フランスの歴史家。ルネッサンスの語を学問的に最初に使用。(5)アナトール・フランス（Anatole France）：（1884年-1924年）フランスの詩人・小説家・批評家。1921年ノーベル文学賞受賞。(6)シャルル・ペギー（Charles Péguy）：（1873年–1914年）フランスの詩人、劇作家、思想家。第一次世界大戦マルヌの戦いで戦死。(7)ジョルジュ・ベルナノス（Georges Bernanos）：（1888年-1948年）フランスのカトリック作家、思想家。(8)カール・ドライヤー（Carl Dreyer）：（1889年-1968年）デンマークの映画監督。(9)ロベール・ブレッソン（Robert Bresson）：（1901年-1999年）フランスの映画監督、脚本家。(10)リュミエール兄弟(frères Lumière)：映画を発明し、世界で初めて有料上映を行ったフランスの兄弟。映画の父と呼ばれる。(11) ジョルジュ・メリエス（Georges Méliès）：（1861年-1938年）映画に魔法をかけた、特撮とSF映画の生みの親。奇術師でもある。(12)マーク・トウェイン（Mark Twain）：（1835年- 1910年）アメリカの小説家。「トム・ソーヤーの冒険」など。本文言及の伝記は「マーク・トウェインのジャンヌ・ダルク」として新訳がある。

日本の四季のレシピをフランスで

11月、霜月、今年もあと残り二か月となりました。秋の森へお弁当を持って、あたたかいほうじ茶、お味噌汁と、優しい時間を楽しみます。「おかえりなさい。今日も一日お疲れ様でした。」秋の実りをたくさん使って用意しました。どうぞ召し上がって下さい。

＊秋のお赤飯＊　森で拾ってきた栗で、お赤飯を炊きました。銀杏も拾ってきて、いっしょに炊きました。通り過ぎるフランス人に、「なにを拾っているの」と聞かれます。栗も銀杏も今年もおいしい秋の贈り物です。



＊秋のお味噌汁＊　さつま芋、人参、ごぼう、れんこん、ねぎを入れた具だくさんの味噌汁です。

＊豆乳うどん＊　だしに、豆乳、塩、醤油で味付けし、茹でたうどんを入れます。梅干し　みじん切りにしたねぎとどうぞ。

＊里芋のごまみそ煮＊　寒い冬、こたつに入りながらお茶うけに食べました。祖母、母がいつも用意してくれた思い出の味です。里芋、人参、れんこんを煮て、みりん、味噌で味付けます。胡麻は弱火で炒って、すり鉢で香りがでるまですりります。いい香りが部屋いっぱいに漂います。胡麻をするのは、子供達でした。

＊こんにゃく、人参、ほうれん草の白和え＊　柿といちじくの白和えもおすすめです。お豆腐に胡桃を添えてどうぞ。

＊ぶどう、チーズ、生ハムのサラダ＊　ぶどうのおいしさを味わいます。オリーブオイルと塩でシンプルにどうぞ。



🍁里奈の本、JAPON 2 から二品です🍁

菊芋の唐揚げ　菊芋は、食物繊維が豊富な野菜、消化や免疫、心と体の健康をサポートしてくれる嬉しい野菜です。油を控えている方は、揚げずに、オーブンで焼くのがおすすめです。



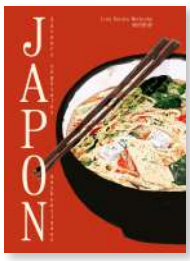
抹茶の豆腐ムース　絹ごし豆腐を使った簡単でおいしい抹茶のムースです。豆腐には、カルシウム、マグネシウム、鉄分、ビタミンB群などが含まれています。大豆に含まれる成分は、ホルモンバランスや骨の健康もサポートしてくれます。食後でも軽いデザートなので、過食が続くこれからの時期、クリスマスなどにもぴったりですね。

【日本人会の皆様へ】

情報や争いにあふれる現代だからこそ、一人ひとりが自分の内側に調和を取り戻すことが大切なのではないでしょうか。

食事は、ただお腹を満たし、栄養を摂るためだけのものではありません。自然の恵みを受けた食材には、生命のエネルギーが宿っています。そして、感謝と愛情を込めて料理をすることは、私たちの内側に穏やかさと調和をもたらしてくれると、私は信じています。そして、そのように作られた料理は、食べる人の心にも優しく広がり、やがて人と人とのつながりを通して、社会と地球に愛と平和をもたらす力を持っているのではないでしょうか。もう一度、料理を通して、シンプルに暮らすことを、あらためて感じてみませんか？四季の移り変わりに寄り添い、自然のリズムに耳を傾けながら、私たちの身体が本来持つ流れを大切にする。そんな、日々の暮らしを見つめ直す小さなきっかけとなることを願っています。

[新刊]



（新刊購入サイト）https://www.hachette.fr/livres-la-plage/



倉田 節子・フィエベ 里奈
インスタグラム: @lina_fievet　ウェブサイト: linafievet.com
著書『LA TRADITION DU VEGETAL
(éditions la plage) 』の購入は一般書店及びeBookで
https://www.laplage.fr/produit/386/9782383380443/japon



終（つい）のデザインのススメ

己の最後を決めるための

日本における相続・遺言の基礎知識 (75)
（日仏間も視野に入れて）

国境を越える財産情報

「日本で相続税の申告も済ませたし、これで一件落着。」そう思っていたところ、しばらくしてフランス税務当局から連絡を受け、申告漏れを指摘されたという話を耳にしたことがあります。

◆「日本で済ませたはずなのに」

長年フランスで生活された後、日本へ帰国して親御さんの介護を経て相続を経験されたAさんの事例です。日本で一通りの相続手続や税務申告を済ませたにもかかわらず、のちにフランス側から相続に関する申告義務があると指摘され、結果的に加算税も含めて納税したそうです。フランス税法では、フランスの税法上の居住者であった期間など一定の条件を満たす場合、フランスでの相続税等の申告納税義務が、日本にいても及ぶ仕組みがあります。

もちろん、個別事案ごとに事情は異なりますし、フランス当局がどのような経緯でこの方の相続情報の事実を把握したのかは分かりません。しかし、この事例から感じるのは、「日本のことは日本だけ、フランスのことはフランスだけでOK」という、従前の考え方が通用しない時代になっているということです。

前回まで、日本の不動産の名寄せ制度や、フランスにおける所有者不明財産の制度をご紹介しました。これらに共通するテーマは「財産情報の把握」です。日本の税務においても、国籍や相続人や被相続人の在住状況等によりフランスの資産が課税対象に含まれるケースがあり、国内外“双方”での適切な把握と対応が不可欠です。そして現在、このような財産の把握は一国の中だけではなく、国境を越えて行われるようになりました。

◆なぜ海外の財産の情報が分かるのか？

その代表例が、OECD（経済協力開発機構）が策定した**「CRS（Common Reporting Standard、共通報告基準）」**です。

CRSは、各国の税務当局が金融口座に関する一定の情報を相互に交換する仕組みです。フランスに住む人が日本に口座を持っている場合や、日本に住む人がフランスに口座を持っている場合など、一定の条件の下で情報交換が行われます。また、フランスの銀行や生命保険会社で手続きをした際、「あなたはアメリカ市民ですか？」、「アメリカで納税義務がありますか？」という質問を受けた経験のある方もいらっしゃるでしょう。これは「FATCA（Foreign Account Tax Compliance Act：外国口座税務コンプライアンス法）」と呼ばれる米国の税務制度に関連しています。FATCAは、アメリカ人等が海外に保有する金融資産を把握するための制度であり、金融機関は顧客が米国の納税義務者に該当するかどうかを確認しています。そのため、日本でもフランスでも、相続手続に限らず、銀行口座の開設や各種金融取引の場面で「FATCA」の文字を目にしたり、アメリカ人か否か、アメリカでの納税義務者かなどの質問を受けるのです。こうしたFATCAやCRSなど国際間の情報共有の流れは、各国の税務当局にとって重要であるだけでなく、相続では、『残された家族』の視点でも非常に大きな意味があります。

◆財産の“見える化”という備え

私が相続実務に携わる中で、本当に困るのは、フランスをはじめ海外の事情のわからない家族だと実感します。相続人がフランス在住の場合は、日本の事情が把握しきれないかもしれません。

亡くなった後になって海外口座の存在が判明する。どこの国の銀行に預金や不動産があるのか誰も分からない。相続税申告が終わった後に新たな財産が見つかる。どこに聞けば良いのかもわからない。こうした問題は、残された家族にとって大きな負担になります。

海外生活や国際結婚が珍しくなくなった現在、一人の方が複数の国に資産を保有することがある時代です。だからこそ、預金口座、証券口座、生命保険、不動産などについて、「どこに何があるのか」を家族や信頼できる知人等に分かる形で整理しておくことが大切です。

財産、連絡先の一覧表を作るだけでも十分な第一歩です。国際的な情報共有が進む今だからこそ、将来の相続に備えた財産の“見える化”が、ますます求められます。「財産が海外にあるから分からないだろう」という時代はほぼ終わっています。



司法書士　**桑瀬　登起子**（くわせ　ときこ　会員）
Consulting Office 桑瀬
TEL: 03-3354-0445 / FAX: 03-5363-8971
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町15-38-202

連載　フランス生活　養生訓

第34回　「Nutri-Score（ニュートリスコア）」の賢い見方

みなさん、こんにちは。

様々な食品のパッケージに表示されているニュートリスコア、一度は目にされたことがあるのではないでしょうか。



ニュートリスコアは、栄養価が最も高いA（濃い緑色）から最も低いE（濃いオレンジ色）まで、製品の栄養価をランク付けしたものです。食品100gまたは100mlあたりの栄養素や食品（食物繊維、タンパク質、果物と野菜、豆類）と、摂取を制限すべき栄養素（カロリー、飽和脂肪、糖類、塩分など）に基づいてアルゴリズムで算出されています。2017年から任意の表示が推奨され、共鳴する企業のみがスコアを表示しています。ただ、表示されていない製品でもOpenfoodfacts (https://Openfoodfacts.org/)というオープンソースのサイト（無料会員登録要）で食品表示データが共有されていればスコアが算定され、閲覧が可能です。

スコア表示が始まった当初は糖類や塩分、人工甘味料などの算出には課題が多く、2024年に再度厳しく見直しされました。問題点としては、伝統的な熟成チーズや油脂の多いバターやオイルなどは100g摂取することは稀な場合でも100g基準で算出されているので、当然ながらこれらの食品はニュートリスコアが悪くなってしまいます。逆にソーダ類などは1缶330mlなので、100ml当たりの砂糖の量としては少なくても、3,3倍の量を一度に摂取すると考えなければなりません。

では、このニュートリスコアはどのように活用するのがいいのでしょうか？

① 同じ売り場、もしくは同じカテゴリーの食品を比較する

例えばパン売り場に並んでいるパンの中で、ブリオッシュとミルクパン、食パン（全粒粉・精製小麦）などを比較してみてください。スコアがかなり異なっています。

② 同じ食品で異なるメーカーの比較をする

全粒粉パンの中でメーカー別に比較してみてください。意外とスコアが違います。

③ 同じ機会に消費される食品を比較する

食後のデザートに食べるとしたら、ヨーグルト？クリーム？アイス？またヨーグルトであれば無糖、果糖？フルーツ入り？などなど、これもスコアが異なります。

スコアがDやEである食品でも、少量の摂取かつ頻繁でなければ食物繊維が多い食品と組み合わせて食べることなどで悪影響を防ぐこともできます。また、悪いスコアがどの理由から来ているのか（脂質、糖質、塩分、添加物など）その部分を見極め、自分の中で優先順位をつけることも大切です。食べることは喜びでもあるので、このスコアだけに左右され、食事が美味しく楽しいものでないものになってしまったとしたら…とても悲しいことですよね。

また、Openfoodfactsのサイトでは、ニュートリスコアだけではなく、Nova分類という加工食品の度合いを図る分類も表示されているのでこれらを一緒に見るといいでしょう。



NOVA分類は、食品を4つのカテゴリーに分類し、これらのカテゴリーは、食品を作るにあたって実施された加工過程、特に食品の配合（原材料の種類と数）に関連する基準に基づいています。NOVA4はいわゆる超加工食品と呼ばれるものになり、日常的な過剰摂取は健康リスクが高まります。全粒粉の食パンや今流行りのハイプロテイン系の食品などはニュートリスコアがAなのにNOVAが4　ということも！やはり大切なのは食品添加物も含めた食品表示をきちんと確認すること。色々な角度から考えて、賢い消費者になりましょう。

参考文献：Réseau Acteurs (PNNS)
https://www.reseau-national-nutrition-sante.fr/fr/le-nutri-score-pour-mieux-manger-en-un-coup-d-oeil_-r.html



小椎尾　真衣（こじお　まい）
Diététicienne-Nutritionniste /管理栄養士
インスタグラム
https://www.instagram.com/diet.japonaise/
（日々の食生活をゆるーり綴っています）

フランス法律コラム

「フランスの不倫と離婚事情」

パリでは55パーセントのカップルが離婚するというこのご時世、離婚のご相談は多数承っており、お話を聞く中で、離婚の背景には、夫婦間の愛情の喪失、コミュニケーション不足、性的不一致、不貞、経済的問題など、さまざまな要因がある。しかし、近年、不倫（Adultère(nom masculin)）が理由での離婚相談が多くなっていることを感じている。

早速、ネットで統計、そして、日仏の違いを調べてみた。

いくつかの統計があがってくるが、フランスでの最近の調査では、55%の男性、32%の女性が、婚姻状況の中で、不倫したことを認めているといい、年々リベラル化が進んでいるようだ。という事は、実際はこの数字より多いことを想像する。年齢層のピークとしては、男性は、40〜55歳の間。女性は、30歳〜45歳という。

その中で、55%は離婚回避し、45%は修復ができなということで離婚に至るという。

フランスでの、離婚の理由は、「性生活、不倫」（60%）「日常生活の問題」「子育て教育方針」と続いている。

日本では、離婚の理由として、「性格不一致」「精神的身体的DV」「生活費を与えない」そして、「不倫」（12%）が第4の理由として挙げられている。

歴史的背景をみると、ヨーロッパでは伝統的にカトリック教会では、不倫は結婚の誓いに反する重大な罪とされてきて、結婚は神聖で解消できない結びつきと考えられていたが、フランス革命で、国家、法律と宗教が分離され、結婚と離婚が民法によって規定された。

Adultèreは、1884年7月27日法で「有責」と法律で定義されて、1975年7月11日法から、刑法での裁かれる行為ではなく、司法で「離婚の有責」として裁かれるようになった。

日本での有責離婚制度は、儒教的な家族感維持の為に設けられ、明治時代に、フランス法ドイツ法から影響を受けて、離婚の原因が明文化されたという。つまり、日本では、宗教的な道徳感ではなく、「家系の秩序維持」と考えられ、その当時は、夫と妻の法的地位に差があり、戦後から男女平等が憲法24条によって保障された。また、有責配偶者からの離婚請求は出来なかったが、1987年から、認めるようにもなった。

このような文化的な不貞に関する観念の違いから、いわゆる「有責離婚」でもフランスは、宗教的な背景と、日本のように、家族一族（戸籍の制度のように）の維持保つために設定された歴史的、そして文化的背景がある。

現代フランスの不倫離婚の増加は、性のリベラル化、個人の自由、女性の社会的進出、など、社会の変化を映し出しているが、実際のところ、不倫によって、身体的衝撃を受ける方の痛みは変化はないし、結局、不倫の数が増えたのではなく、不倫に対して社会的タブー視されなくなっただけではないのでしょうか？

次回は、「有責離婚と不倫の話」、「不倫と慰謝料の話」、とフランスでの離婚制度について、続く。



弁護士　岩村 由木
東京生まれ、東京育ち。
米ヴァージニア州大学国際法学部、パリ第10大学国際·欧州法修士、グルノーブル大学知的財産法修士、15年間仏ルノー本社法務部パリ勤務後、仏弁護士資格取得。在仏28年。
専門―　国際離婚、国際相続、事故賠償、知的財産法、労働法、ビザ各種
www.avocat-iwamura.com

グローバル時代のコミュニケーション

〜国や文化を超えて真に信頼関係を作るコミュニケーション〜

【第57回】

みなさまこんにちは。
日本では8月から10月にかけて記録的な長雨となり、東京では37日間も雨の日が続きました。気持ちもすっきりしない日々でしたね。また10月後半は急に気温も下がり、夏から一気に冬に突入した感じです。パリの街並みも、美しい秋色に染まり、落ち葉が舞う季節となっている頃でしょうか。温かいコーヒーや紅茶が美味しく感じられる季節ですね。

さて、前回は「感情は外の出来事ではなく、自分の頭の中の意味づけ（二次体験）から生まれる」というお話をしました。

今回は、私たちがその意味づけを行い、物事を理解しようとする際、「どの感覚を優先して使っているか」についてお話したいと思います。

私たち人間には、外の情報を取り入れる時に、視覚、聴覚、皮膚感覚（この中に味覚と嗅覚を含めます）があります。そのなかで、これまでの様々な経験や育ってきた環境によって、自分が「最も理解しやすい、優位な感覚」というものが無意識のうちに形成されています。右利き・左利きがあるように、情報の受け取り方や表現の仕方にも「利き感覚（得意分野）」があるのです。NLPでは、これを「VAKモデル」と呼び、大きく3つのタイプに分けて考えます。

1. 視覚優位（Visual：Vタイプ）　物事を「映像」や「画像」として捉えるのが最も理解しやすいタイプです。　頭の中に次々と映像が浮かぶため、話すスピードが速く、身振り手振りも大きくなる傾向があります。よく使う言葉：「全体像が見える」「見通しが明るい」「焦点を合わせる」「頭が真っ白になる」など。
2. 聴覚優位（Auditory：Aタイプ）　物事を「音」や「言葉の論理」として捉えるのが最も理解しやすいタイプです。筋道だった説明を好み、腕を組んでじっくりと相手の言葉の響きや論理に耳を傾けます。よく使う言葉：「理にかなっている」「耳が痛い」「話のトーン」「リズムに乗る」など。
3. 身体感覚優位（Kinesthetic：Kタイプ）　物事を「肌触り」「重さ」「感情」などの感覚として捉えるのが最も理解しやすいタイプです。自分の内側の感覚を確かめながら話すため、言葉のペースはゆっくりで、言葉と言葉の間に「間」が多くなります。よく使う言葉：「腑に落ちる」「しっくりくる」「重荷になる」「肌で感じる」など。

いかがでしょうか。ご自身はどのタイプに近いと感じましたか？（誰もが3つすべての感覚を持っていますが、これまでの経験によって無意識に優先して使っている得意な感覚がある、ということです）
この「優位な感覚」の違いを知らないと、職場でこんなすれ違いが起きてしまいます。
例えば、新しいプロジェクトを立ち上げる時。視覚優位（V）の上司が、「このプロジェクトは見通しが明るいぞ！　もっとパッと全体像を描いて進めよう！」と身振りを交えて熱く語ったとします。しかし、聴覚優位（A）の部下は、「話の筋道が見えない。具体的にどう進めるのか、ステップを言葉で説明してくれないと動けない」と不満を持ちます。一方、身体感覚優位（K）の部下は、「なんとなくしっくりこない。自分が肌で納得するまで（腹落ちするまで）動けない」と立ち止まってしまいます。
上司は「どうしてこのビジョンが見えないんだ！」とイライラし、部下たちは「上司の言うことはピンとこない」と白けてしまう。相手の理解力がないのではなく、ただ「お互いの理解しやすい感覚」が違っているだけなのです。

私が提唱しているコーチアプローチファシリテーション（CAF）の「人間力」においても、この違いを理解しておくことは非常に重要です。「自分が伝えたいように伝える」のではなく、「相手が理解しやすい感覚（言葉）に合わせて伝える」こと。例えば、Aタイプの部下には「論理的な手順書」を渡し、Vタイプの部下には「図解やグラフ」を見せる。これが、コミュニケーションにおける『思いやり』であり、相手を尊重することに他なりません。

2027年1月からは日本人会のサイト：
（https://zaifutsunihonjinkai.fr/）のコラム欄に連載を開始します。次回からは会報にではなくネット版への掲載となります。より多くの方に読んでいただけるようになります。どうぞお楽しみに。

大山裕之　コンティニュウ株式会社　代表取締役社長
社団法人コーチアプローチファシリテーター連盟　理事長
国際コーチ連盟認定プロフェッショナルコーチ

ブロワ・シャンボール駅正面(部分)





場所と人の出会い

【66】

モン・ブランの見える町サランシュとベルナール・イノー

Bernard Hinault (1954-)



街の入口のモニュメント

夏のヴァカンスに久しぶりにアルプスの風景が見たくなり、高速道路A6からA40と走りサランシュの町を目指して県道D1205を走っていたら、左の写真のモニュメントが目についた。何のことはない、嘗ての自転車ロードレースのチャンピオン、ベルナール・イノーである。場所はサランシュの入口のロンポワン。この三角形のモニュメントの右下に、1980年世界選手権ロードレースでイノー選手が優勝したと記してある。ここサランシュの周回コースにおいてである。そして2027年の世界選手権ロードも一周13.3キロの同周回コースで9月5日(日）に開催される予定との事。昨年出版されたベルナール・イノー自身による自伝によれば、この年1980年は春先から寒い日々が続き、プロ自転車選手たちにとっては春のクラシック・レースでも、厳しい寒さや、雪の降るコンディションであったりと大変なレース・シーズンの幕開けだったらしい。そんな影響もあってか、６月末にドイツのフランクフルトから始まったツール・ド・フランスでは第11区間、第12区間で総合首位であったにも拘らず、イノー選手はピレネー山脈を目の前にして突然レースを棄権してしまう。膝の故障が原因だったという。そんな事もあり、彼にとっては9月にフランスのサランシュで行われる世界選手権ロードで雪辱を果たす、というのがシーズン後半の新たな目標となっていたらしい。



ドマンシーの坂（登り口）

サランシュの周回コースの勝負所は何と言ってもドマンシーの坂。この坂の全長は2.6キロで標高差は220m、平均斜度は8.6%だが、一部は15%の区間もありライヴァル選手達に差をつけるには絶好の場所。1980年のレースでは、最終周回にイノー選手はこの急坂で追随していたイタリアのバロンケリ―選手を引き離し、マイヨ―・アルカンスィエルを手にしたのだった。当日、坂道をちょっと歩いてみたのだが、アルプスの有名なガリビエ峠などに比べると、道路は狭くきついコーナーが多いので、常に先頭グループに位置していないと入賞は難しいと感じられた。



サン・マルタン橋

サランシュは人口1万7千人程の町で、ここから25キロ程東にあるスキーや山登りで有名なシャモニーのように有名ではないが、モン・ブランを始めとする周辺の切り立った山々が見える標高500m程の小さな平野が町の中心部になっており、近年は旧市街の商店街がリニューアルされ、ウインドーショッピングも楽しい場所。さて、車を町の東にある無料駐車場に置いて町の散策を始める。

歩き始めて直ぐに白く濁った水（雪解け水）が勢いよく流れるアルヴ川に架かる石のアーチで出来た橋が目につく。サン・マルタン橋である。橋の中央にある十字架の下部にある石板には、当時このサヴォアの地を治めていたヴィットリオ＝アメデオ3世の命で1783年に架けられたとある。橋に繋がるサン・マルタン大通りを町の中心部に向かって進む。鉄道の踏切を越え左に曲がり、将来電車で来る時の事を考えてサランシュ駅へと向かう。写真で分かるようにこじんまりとした駅で、駅前から近隣の町々を周回する地域バスがあるばかりでなく、長距離バスも出ている。



サランシュ駅

さて、このサランシュと言う町の名前だが、町の中心部を西から東へと流れアルヴ川にそそぐSalanche川がその起源らしい。そして、そこに架かる橋には花が飾られていて通行人の目を楽しませてくれる。川沿いの道を左に折れると「平和の像」が立っているシャルル・アルベール広場に出る。この平和の像は最近造られたもののようだが、像が立っている泉は「平和の泉」と言い、フランス革命100周年を記念して造られたものだという。そこにある掲示板によれば、この広場は2025年に大改造が終了し現在の姿になったのだという。それ以前は広場の6割余りが駐車場だったそう。ここは町のほぼ中心部にあり、広々として緑も散りばめられているので人々が良く行き交っている。サランシュ川に戻り川沿いの道を上流の方に歩いて行くと、右手にコンパクトな市庁舎があり、脇には観光案内所も併設されている。そして道路と川の間のあまり広くない歩道には朝市が立っている（土曜日のみ）。さらに進んでいくと右前方にサン・ジャック教会が聳えている。



サランシュ川



平和の像



サランシュ市庁舎



サン・ジャック教会

この教会の内部には、キリストの生涯を綴った幾つもの絵が展示されており、更に祭壇上部にはレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」を踏襲した絵があり、ミラノにある本物よりも色彩が鮮やかなのが印象に残った。教会を出てから「車でモンブラン・トンネルを抜けミラノ迄（270キロ余りの距離）行き、本物の最後の晩餐を見に行こうか…」などと思ったのは、たぶん夏の暑さのせいだろう。



三日月形の最後の晩餐

フランス政府公認ガイド　小林 京二

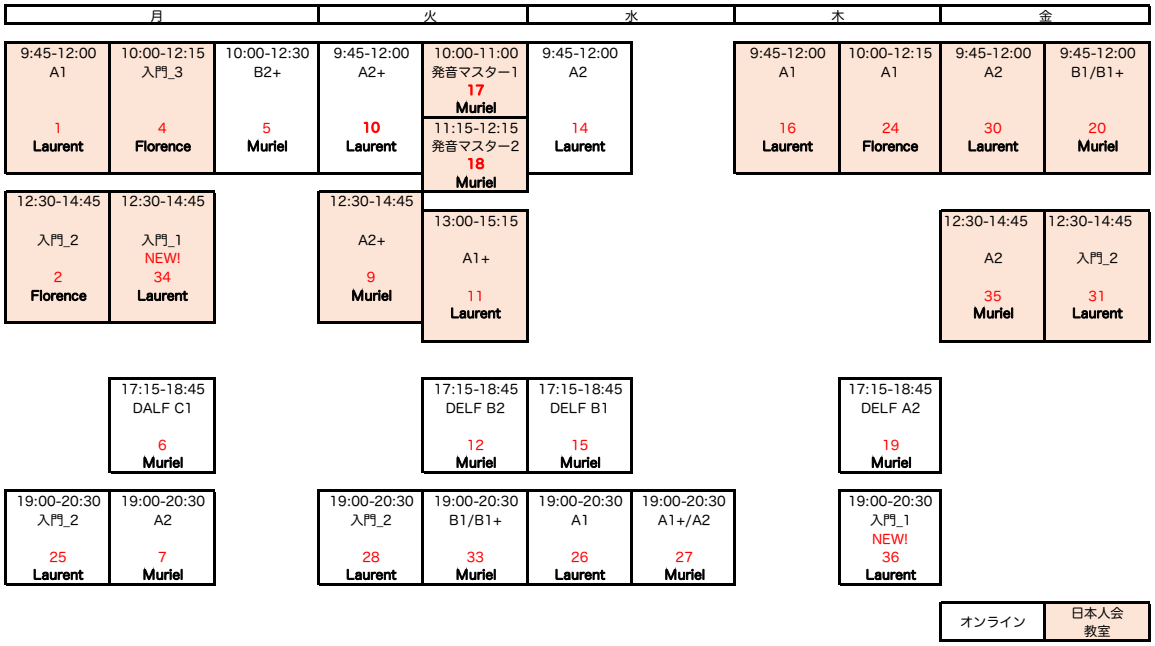
ふらんす俳句会

自選句集　164

（入会順）

冷やし桃艶たつ肌に産毛たち　勝義
黄葉や命の末に色咲かす　勝義
微熱あるくちびるに染む桃果かな　万里
歌枕廻る旅路や秋の郷　万里
秋風に吹かれいづくへ民の声　なをみ
むくほどに蜜柑の故郷のよみがへり　なをみ
幼子の微笑む頬は桃のやう　春代
都市を紅葉で飾り鮮やかに　春代
歩み止む金木犀の家の前　容子
黄葉の遅き訪れひと休み　容子
見上げれば桃たわわなり空抱く　佳久子
もみじ葉に焼き鯖のせてシェフ気取り　佳久子
アトリエに檸檬をギュッと絞る朝　茜
階に硬き骸や秋の蝉　茜
舞い散りてフランスの葉は黄葉で　美佐子
行く道は敷きつめたやう黄葉で　美佐子

日本人会フランス語講座　2027年 1月～3月



日本人会では、2027年1月11日（月）からはじまる1月～3月期（一部4月第1週まで）のフランス語講座の生徒を募集いたしております。

・これまでフランス語を勉強したことのない方向けのクラスから、DALF C1受験用の上級者クラスまでレベルに合わせてお選びいただけます。

・楽しい雰囲気の中で学習できる「教室クラス」と忙しい方などが移動せずに授業を受けられる「オンラインクラス」があります。（教室クラスは定員8名、オンラインクラスは定員6名。少人数での効果的学習が可能です。オンライン授業にはTEAMSを使用いたします。）

・日本人の弱点を知り、日本人の指導に精通した講師が揃っています。

・今期新設のクラス：はじめてフランス語を学習する方向けのクラスを新設いたしました。

▪月曜12時30分～14時45分 入門_1（教室クラス）▪木曜19時～20時30分 入門_1 （オンラインクラス）

・DALF対策講座は　Muriel NAVARRO講師（DELF認定官）による試験対策講座です。一般の語学学校では不可能な、日本人が間違えやすい点を徹底指導。非常に高い合格率を誇ります。DELF/DALFのクラスはお試し受講であっても受講前にレベルテストを受けていただきます。

・日本人会のフランス語講座は18歳以上が対象です。

・お一人2クラスまで体験受講（違うクラスを2つ。同じクラスを2回ということではありません)をしていただけます。/ 入門1のお試し受講のみ、授業進行上の都合から第2回目までとさせていただきます。

・日本人会会員でない方も体験受講は可能です。

・途中入校も可能ですが（その場合、料金は回数割で15%割増）**残り授業数8回以降になりましたら無料体験および途中入校はできませんのでご了承ください。**

・オンラインクラスはフランスの地方、日本からの受講も可能です。

・講座の申し込み人数が3人に達しない場合はそのクラスは開講しない場合がございます。

・日本人会フランス語クラスの受講は日本人会会員に限ります。

フランス語レベル目安 は以下のリンクよりご覧ください。
https://zaifutsunihonjinkai.fr/wp-content/uploads/2022/06/2022_SEP_niveaux_francais.pdf

日本人の特徴を知り尽くした講師陣による授業
Mme Florence MEHRVAR
Mme Muriel NAVARRO
M Laurent LOYER

料金表と授業のスケジュールは下記リンクよりご覧ください。
https://zaifutsunihonjinkai.fr/non-category/post-81957/

問合せ・申込：
Tel. 01 53 76 17 58
coursfr.ajf@gmail.com

目次

片川会長への旭日中綬章の伝達式のご報告 1
フランスでの農業生活 2
第100回全パリ・ソフトボール大会 3
パリ日本文化会館事業案内 4-5
Atelier de Didier Bailly Concert 5
補習校だより 5
舞台裏より愛をこめて vol.31 6
フランス人物伝 < 31 > 6
日本人会活動案内 7
フランス歴史散歩道 8
日本の四季のレシピをフランスで 8
終（つい）のデザインのススメ 9
フランス生活養生訓 第34回 9
フランス法律コラム 10
グローバル時代のコミュニケーション 10
場所と人の出会い <66> 11
ふらんす俳句会 11
日本人会フランス語講座 12

日本人会会報 Journal Japon
年6回発行：第51巻6号（通巻322号）
発行人　片川　喜代治
編集人　高橋　幸隆
レイアウト　杉山　清美
発行　在仏日本人会
Association des Japonais en France
（旧）Association amicale des ressortissants japonais en France
9, Av.Marceau 75116 Paris
TEL: 01-53-76-17-58
月～土　du lundi au samedi 9:30-12:30 /13:30-17:30
https://zaifutsunihonjinkai.fr/　contact@nihonjinkai.fr
*サイト内「会報」「お知らせ」のバックナンバーを閲覧する際のパスワード：heian2020

*本誌の無断転載を禁じます